

俳句

1年目ステップ4

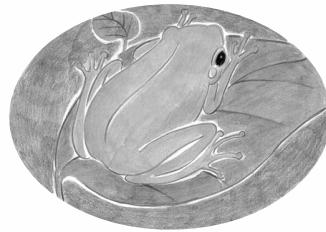


音声はこちら

やれ打つな 蟻が手をすり 足をする
小林一茶



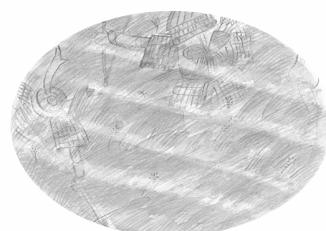
あおがえる 青蛙 おのれもペンキ 塗りたてか
芥川龍之介



あり れつ 蟻の列 くも みね 雲の峰より つづきけん
小林一茶



なつ くさ 夏草や つわもの 兵 どもが ゆめ あと 夢の跡
松尾芭蕉





おんせい
音声はこちら

慣用句

1年目 ステップ4

口がかたい

い 言ってはならないことをむやみに他言しない。



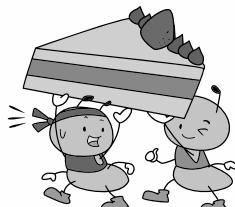
耳にたこができる

おなじ こと なんど き 同じ事を何度も聞かされて、もううんざりだと
おも 思うこと。



手を貸す

ひと し ごと て つだ 人の仕事を手伝うこと。



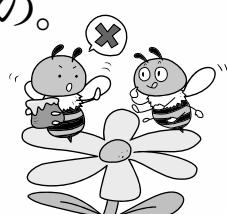
虫が知らせる

なんとなく困った事が起こりそうな嫌な予感がする。



虎の子

たいせつ て もと はな 大切にしまっていて手元から離さないもの。





おんせい 音声はこちら

《品詞のうた》

ひん ひん ひん 品詞

たんごぶんるい 単語を分類 それは品詞

ひんし しゅるい 品詞の種類は 全部で11

ひんし しゅるい 品詞の種類を 覚えよう

11
ひん

しゅご 主語になるのは 名詞 代名詞

しゅご 主語になれない 副詞 連体詞 接続詞 感嘆詞

じゅつけい 述語になるのは 動詞 形容詞 形容動詞

ふぞく 付属語として 助詞 助動詞

ひん ひん ひん 品詞

ひんし しゅるい 品詞の種類を 覚えよう

めいし だいめいし
名詞・代名詞

だれが 何に ～
主語

ふくし れんたいし
副詞・連体詞

かざりのことば

せつぞくし
接続詞

つなぎのことば

かんたんし
感嘆詞

きも 気持ちやよびかけ、
へんじなど

どなんだ。 どうする。
～
述語

どうし けいようし
動詞・形容詞
どうし
形容動詞

じょし じょどうし
助詞・助動詞

それだけでは意味が
わからないことば
「です」「～は」「～を」など



おんせい
音声はこちら

ことわざ

1年目 ステップ4

なが みず くさ
流れる水は腐らず

常に行動している者は停滞することはないことの
たとえ。



二階から目薬にかいめぐすり

二階から階下の人に目薬をさすように、思うように行かず効果のないこと。



きじ な う
雉も鳴かずば撃たれまい

余計なことを言わなければ禍いを招かないですむことのたとえ。



ひとのうわさも七十五日

良いうわさも悪いうわさも時が経てばいはずれは忘れ去られるものだということ。



いしゃふようじょう 医者の不養生

よくわかっているはずの立場の人が、自分では実行しないことのたとえ。



み ご たましいひやく 三つ子の魂百まで

子どもの頃の性質はそのまま一生変わらないものだということ。(……)



百人一首

1年目 ステップ4



おんせい
音声はこちら

わ 天 あま
都 ふりの原 はら
の 原 はら
庵 三 み
の 笠 かさ
は かけ
世 見 み
を の
つ 山 やま
み の
た 見 やま
つ 山 やま
み の
た 見 やま
を の
う の
み の
ち の
山 やま
み の
と の
か の
ぞ の
山 やま
と の
か の
ぞ の
人 月 つき
は 月 つき
い 月 つき
ふ 月 つき
な 月 つき
り 月 つき

(喜撰法師)
(きせんほうし)

(阿倍仲磨)
(あべなかまろ)

